

|                            | 長岡平野<br>西縁断層帯  | 新津断層   | 月岡断層   |
|----------------------------|--|--|--|
| 地震の規模:<br>モーメント<br>マグニチュード | 7.46<br>(気象庁マグニチュード<br>7.9に相当)                       | 6.45<br>(気象庁マグニチュード<br>6.7に相当)                         | 6.76<br>(気象庁マグニチュード<br>7.1に相当)                 |
| (参考※)                      | 平均活動間隔<br>約 1,200 年~3,700 年<br><br>断層の活動性<br>3m/千年程度 | 明確な活動性は明らか<br>になっていない。<br><br>月岡断層より、活動性<br>は低いと考えられる。 | 平均活動間隔<br>7,500 年以上<br><br>断層の活動性<br>0.4m/千年程度 |

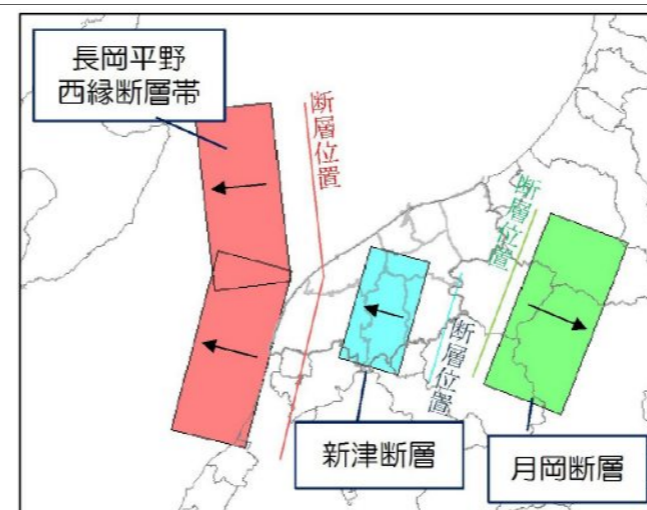
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

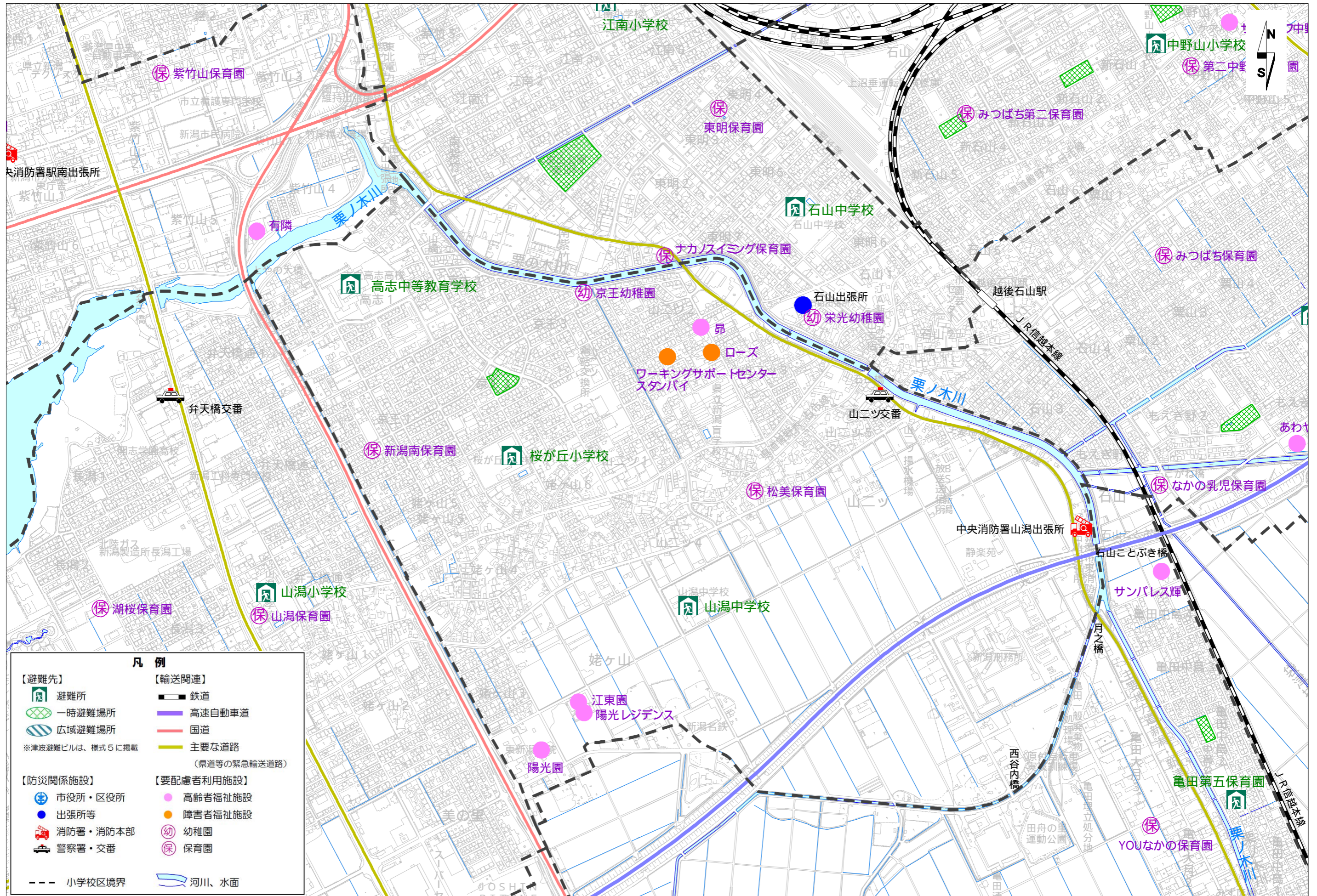


← は、断層の傾きを示しています。



# 様式3 防災地図

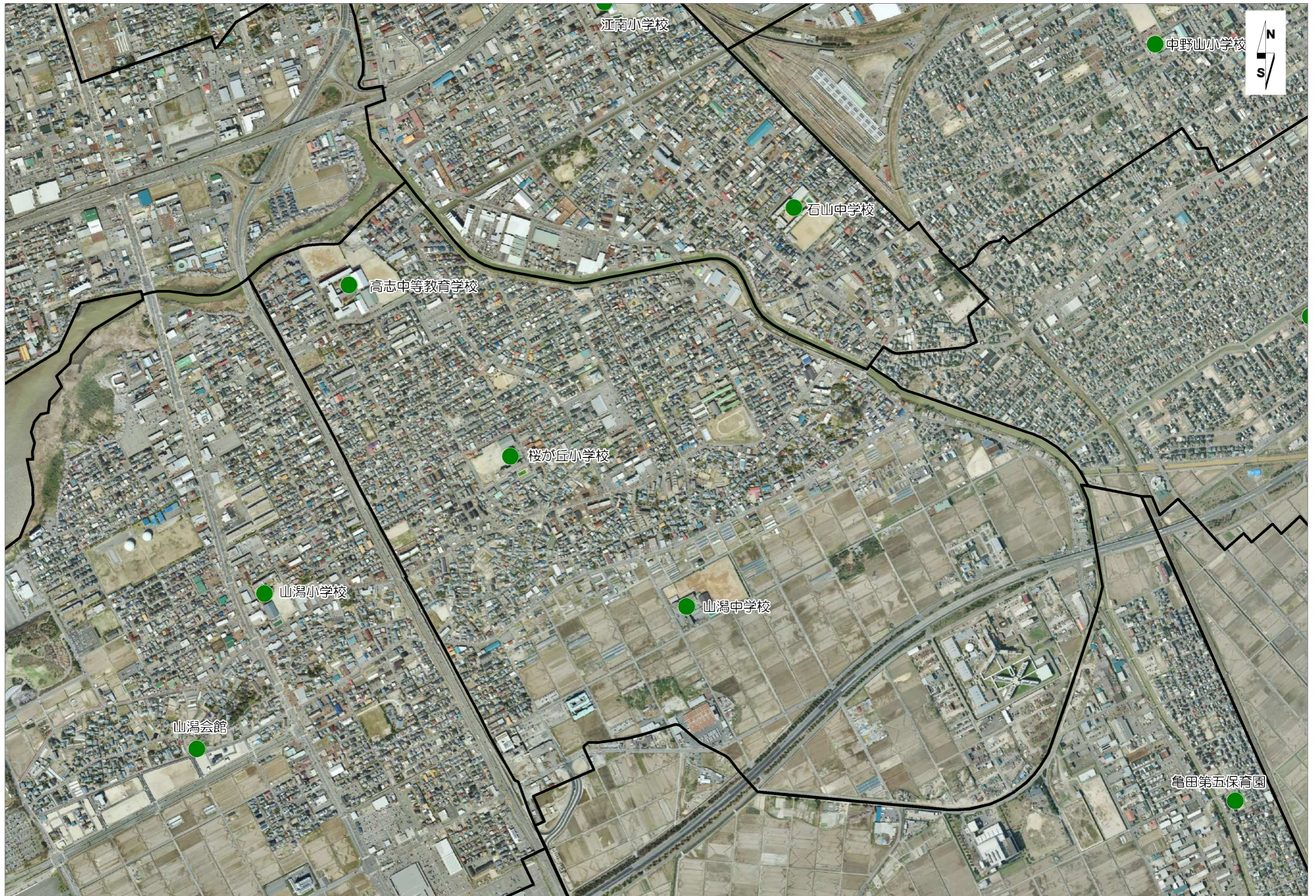
# 桜が丘小学校区



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)

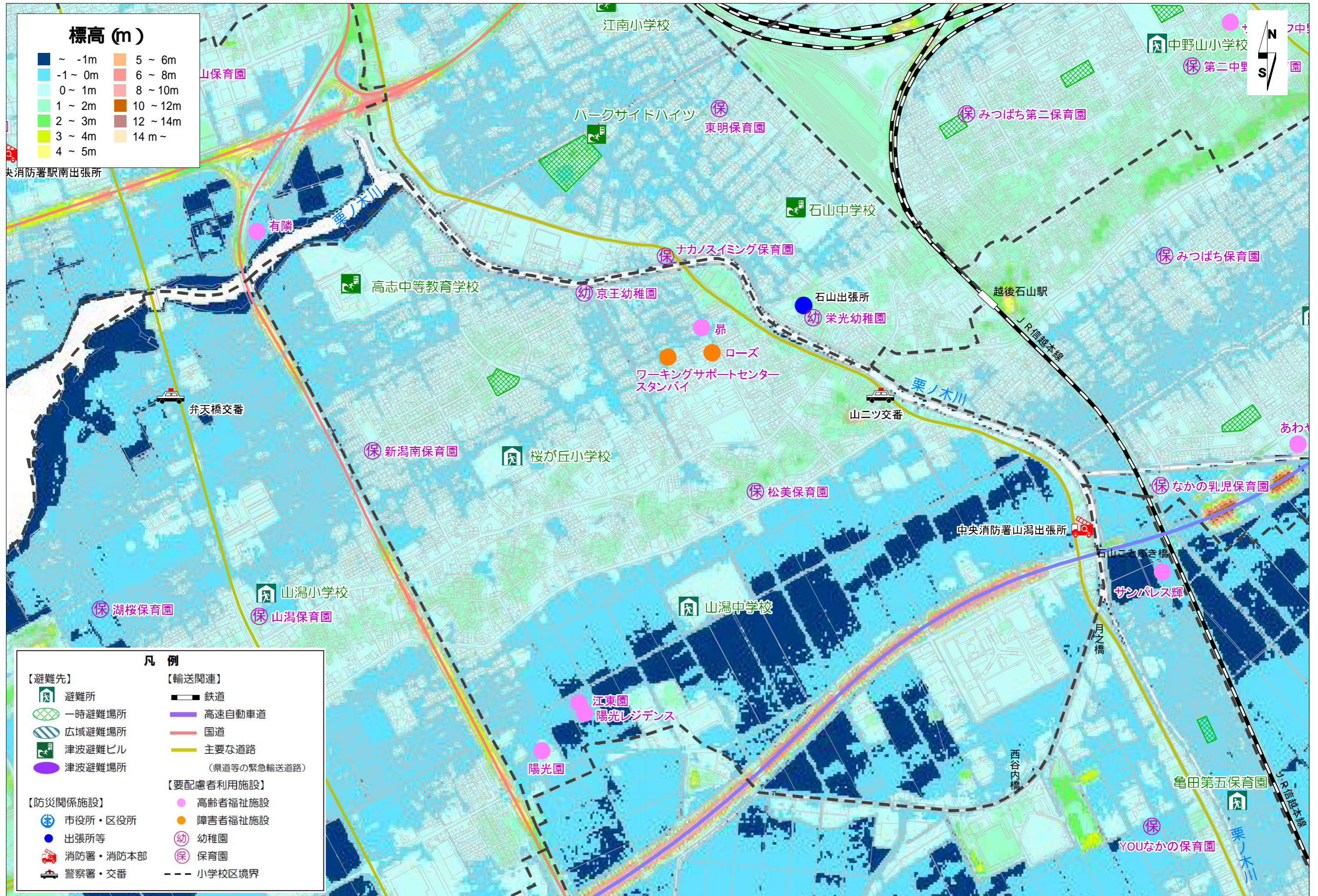








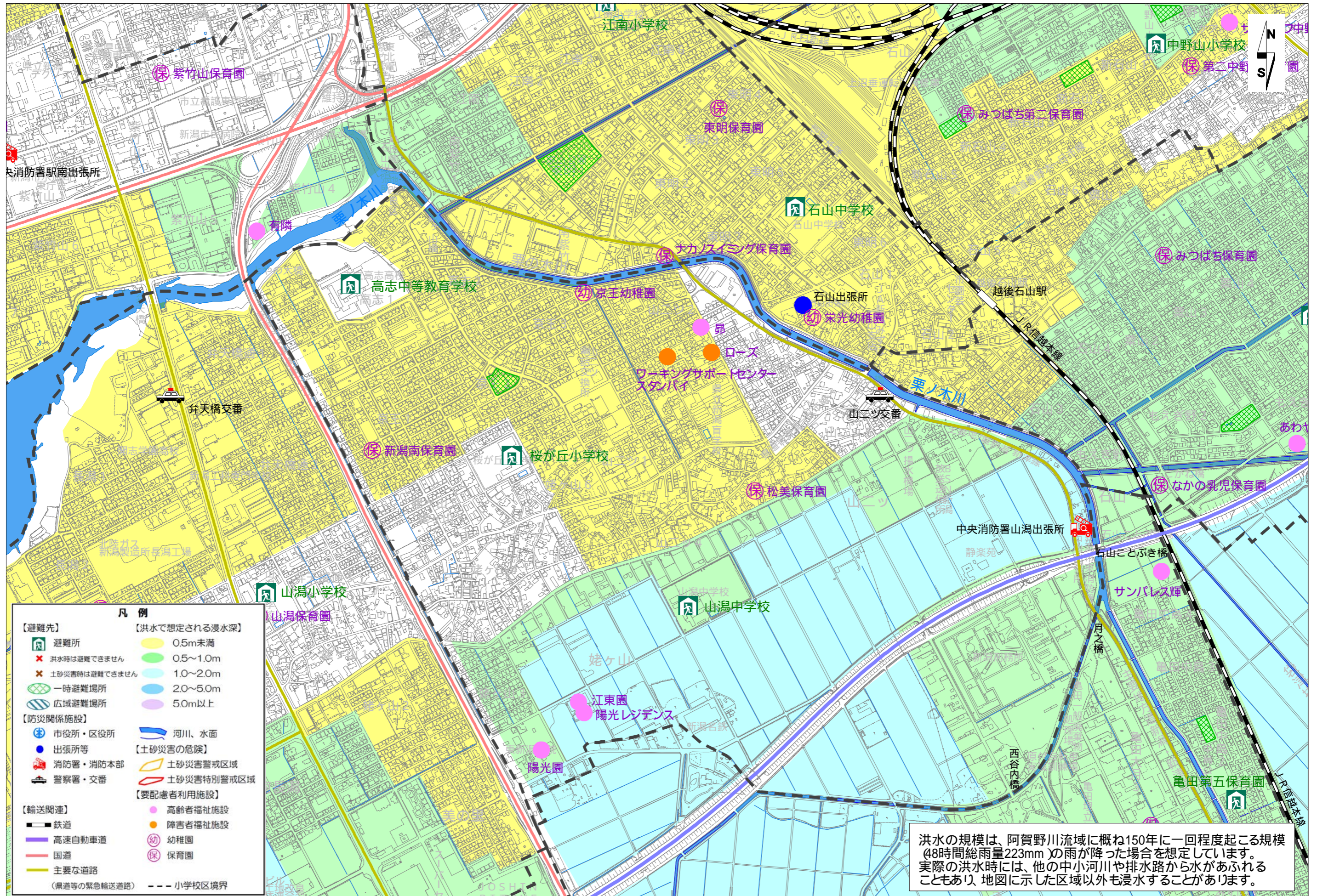
様式5 標高分布図



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)  
5mメッシュDEM (国土地理院,平成25年)



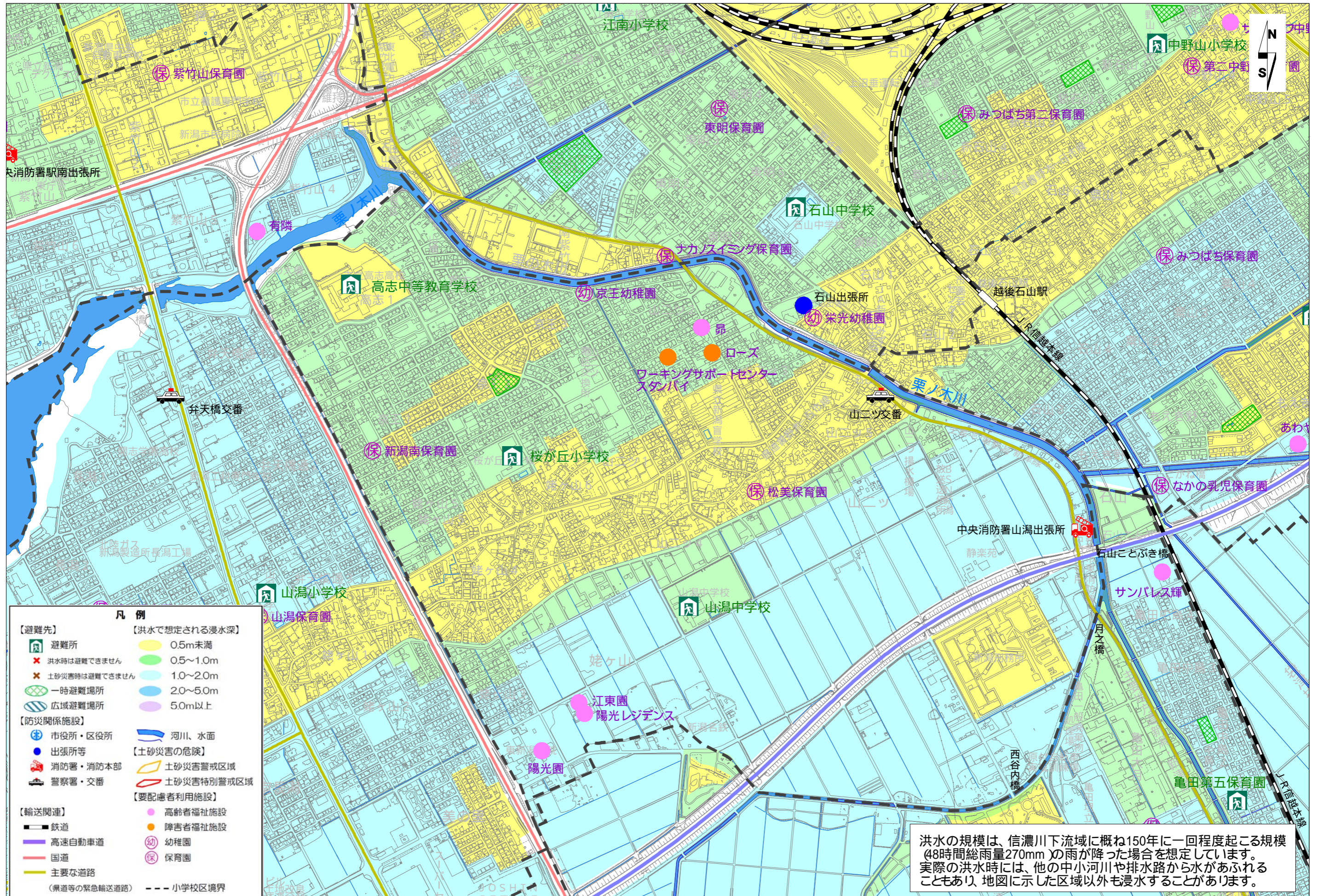




【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）  
阿賀野川浸水想定区域（国土交通省，平成14年1月31日）







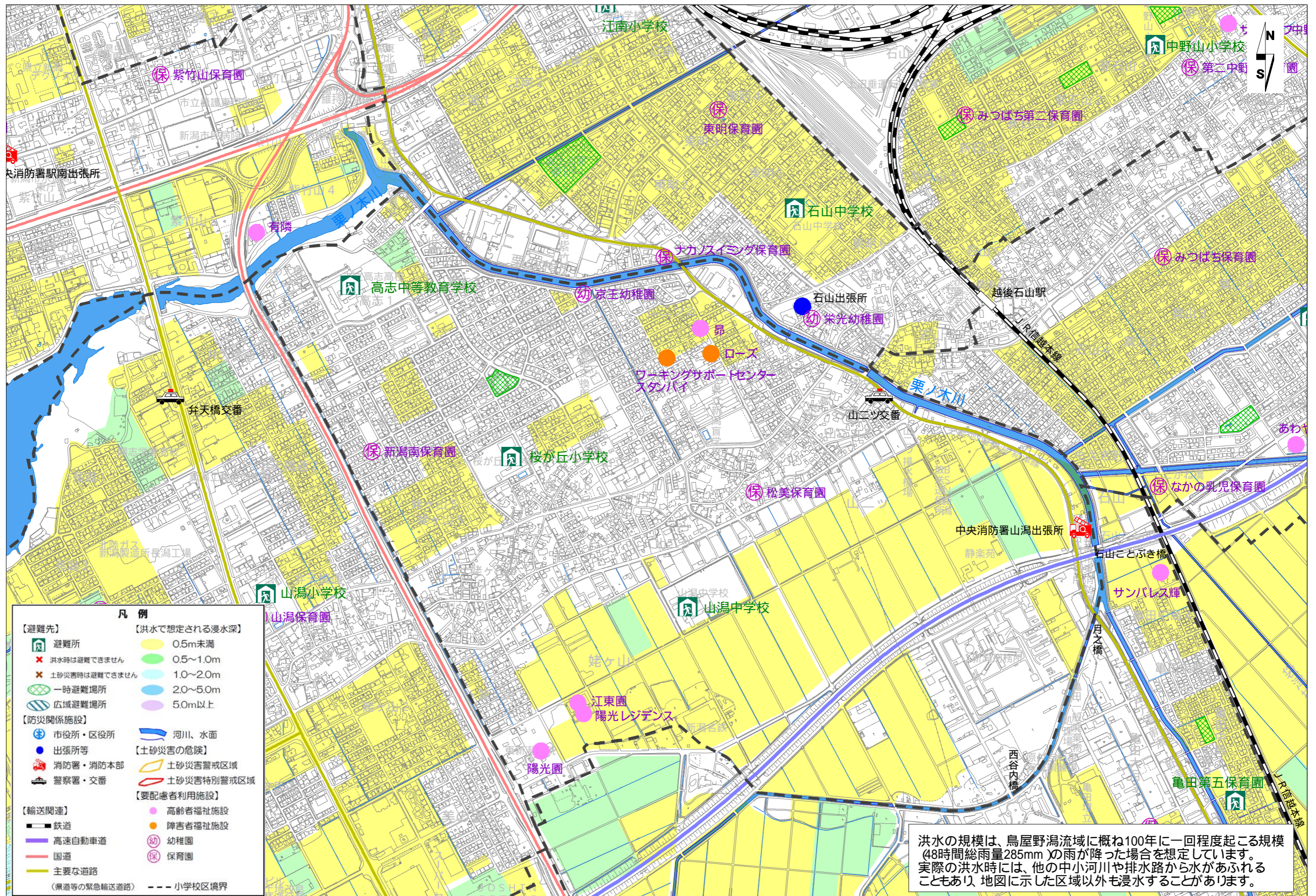
洪水の規模は、信濃川下流域に概ね150年に一回程度起こる規模（48時間総雨量270mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）  
信濃川下流浸水想定区域（国土交通省，平成14年4月30日）





様式6-3 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（栗ノ木川上流・鳥屋野潟・鳥屋野潟放水路）

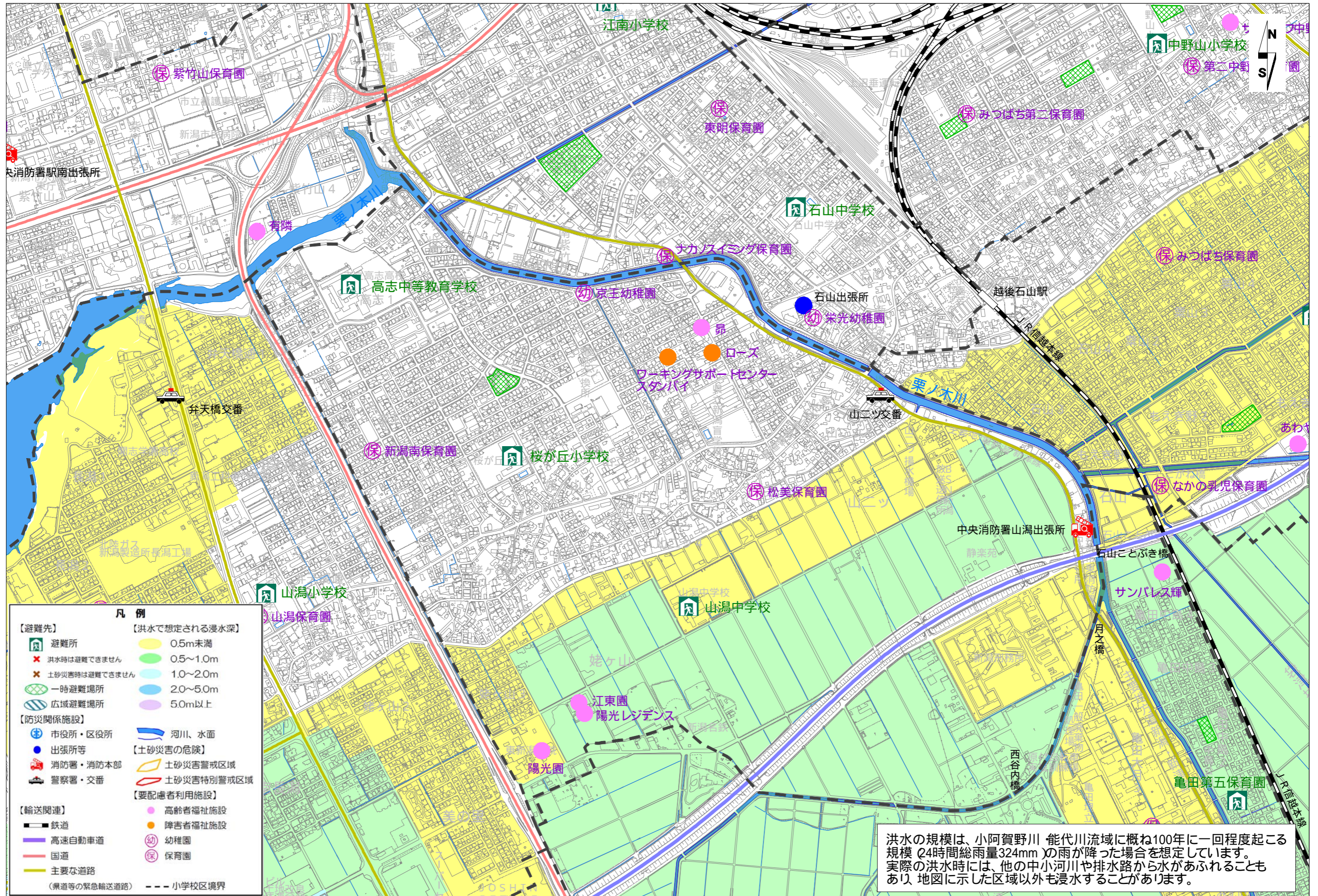


洪水の規模は、鳥屋野潟流域に概ね100年に一回程度起こる規模(48時間総雨量285mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図(平成20年,平成25年,平成26年)  
栗ノ木川上流・鳥屋野潟・鳥屋野潟放水路浸水想定区域(新潟県,平成18年8月25日)



様式6-4 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（小阿賀野川・能代川）



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）  
小阿賀野川・能代川浸水想定区域（新潟県、平成16年6月23日）